

## 27. 山県郡北広島町最高峰 阿佐山 (1218.3m) 山県郡北広島町／島根県



西中国山地の東端に位置し、広島県と島根県の県境にある双耳峰の山。南峰から登山稜線沿いは江戸期から明治にかけて砂鉄採取が盛んに行われた。

山県郡北広島町	2017,5,1 推定
<面積>	646.20 km <sup>2</sup>
<人口>	18,586人
<人口密度>	28.8人/km <sup>2</sup>

【山行日】 5月3日(水) ☆天候：晴れ

～9月17日(日)定例山行予定だったが大型台風襲来のため中止。下見山行時の記録を掲載する。～

【参加者】 4名 CL 栗栖朋子 SL 中島美代子  
石田 高橋

【コースタイム】

来尾峠 9:20→10:35 天狗石山 10:50→11:35 三ツ石山 11:45→12:50 北峰(西ドウゲン)  
昼食 13:50→14:20 阿佐山(南峰)→14:50 二十丁峠→15:50 阿佐山橋(下山口)

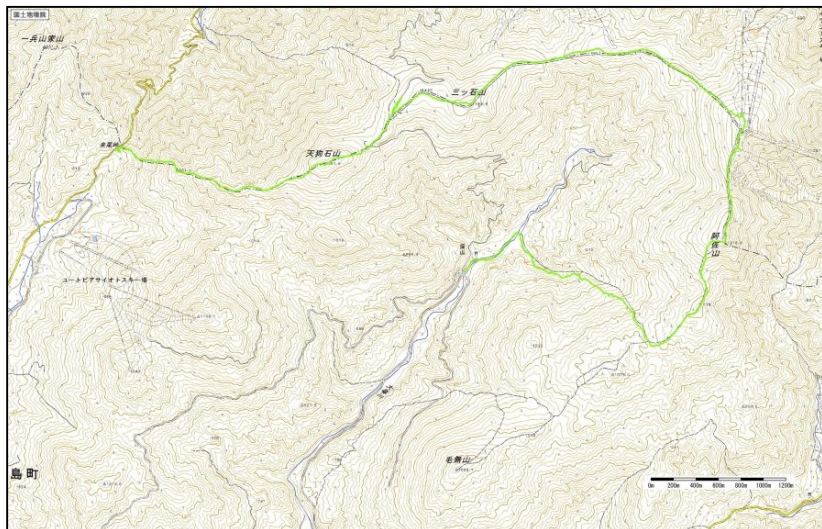
【報告】

南峰は浅山・阿佐山・東ドウゲンなどの山名で呼ばれていたそうです。登山口の来尾峠で身支度を整え出発しました。

登り始めるとイカリソウやショウジョウバカマなどの春の山野草が目に着きます。急登を登り尾根に出ると思った以上の風がありました。

天狗石山に着き、キナイ原を超え三ツ石山への縦走路を進むと足元は思ったほど湿っておらず歩きやすかったです。ここからの道はミヤマカタバミが沢山咲いていて快適に歩け、北峰(西ドウゲン)の瑞穂ハイランドスキー場に到着、昼食としました。

昼食後は展望台に登り、はるか遠くの山まで見て、阿佐山(南峰)へ。阿佐山で一等三角点にタッチして下山開始。この時期はまだ木々の葉が余り出でなくて空が高く明るい！二十丁峠を経て難関の沢を渡り阿佐山橋(下山口)に到着。長い縦走路に心地よい疲れを感じました。



天狗石山からの縦走路はブナ・落葉広葉樹の森林で、何時歩いてもとても気持ちのよい所です。秋の紅葉の時期にも歩いて見たい所です。尾関神社への砂利道の端には桜が見事に咲いていました。季節が広島市内より1ヶ月遅いね～と皆で話し、春を2度味わうことの出来た山行でした。

(記 中島美代子)

## 阿佐山にはいろいろな山名が付けられていた・・・

広島県側の山麓の集落では「ドウゲン山」、島根県側では「ドウギョウ山」などと呼ばれているようだが、地誌を調べるとその他いろいろな名前が記されているようだ。

＝桑原良敏著(元日本山岳会広島山稜会会員)「西中国山地」溪水社 1997年復刊より＝

北峰・・・丸瀬山	『石見風土記』	島根県
青雲山(あおくも山)	『角川地名大辞典』	島根県
同形山(どうぎょう山)	『角川地名大辞典』	島根県
〃	観音寺原、猪子山地区	島根県
畳山	『旭町史』	島根県
西ドウゲン山	深山地区	広島県
南峰・・・浅山	『1700年代古文書』	広島県
〃	『国郡志辻寄記録』	広島県
阿佐山	『芸藩通志』	広島県
	(国土地理院)	広島県
東ドウゲン山	深山地区	広島県
ドウゲン山	移原・高野地区	広島県

上記の本には、ドウギョウ山とドウゲン山は同じ語源から出てきた呼び名で、中国地方西部の方言にドウギレ「中央部が細くなったつづみの形の臼」という言葉があり、双耳峰の阿佐山を見て人間の胴元を連想し、2つの峰に挟まれた鞍部ということで胴元とか胴形の字が当てられたのではないかとの記述があった。なぜこんな名前がついたのかずっと不思議に思っていたがその謎を解いてくれた気がした。その他、「三ツ石山」は津和野、浜田、広島の3藩が境界の印として3つの石を置いていたから名付けられたとか「二十丁峠」は、阿佐山が麓の藩営のたたら場(日本古来の砂鉄製錬所)の木炭供給地であった頃、この峠からたたら場までの距離を表しているなどの記述もあり、地名には歴史があると思わせてくれる。

展望良好！ 北峰(西ドウゲン)頂上



### 今までやまぼうしで登った山県郡北広島町の他の山

臥龍山 掛頭山 大佐山 鷹巣山  
 大潰山 雲月山 一兵山家山 高杉山  
 中野冠山 天狗石山 毛無山(大暮)  
 寒曳山 熊城山 龍頭山 大丸峯  
 火野(日野)山 猿喰山 高岳  
 可部冠山 小掛山 備前坊山